

2月1日ウクライナ情報

安齋育郎

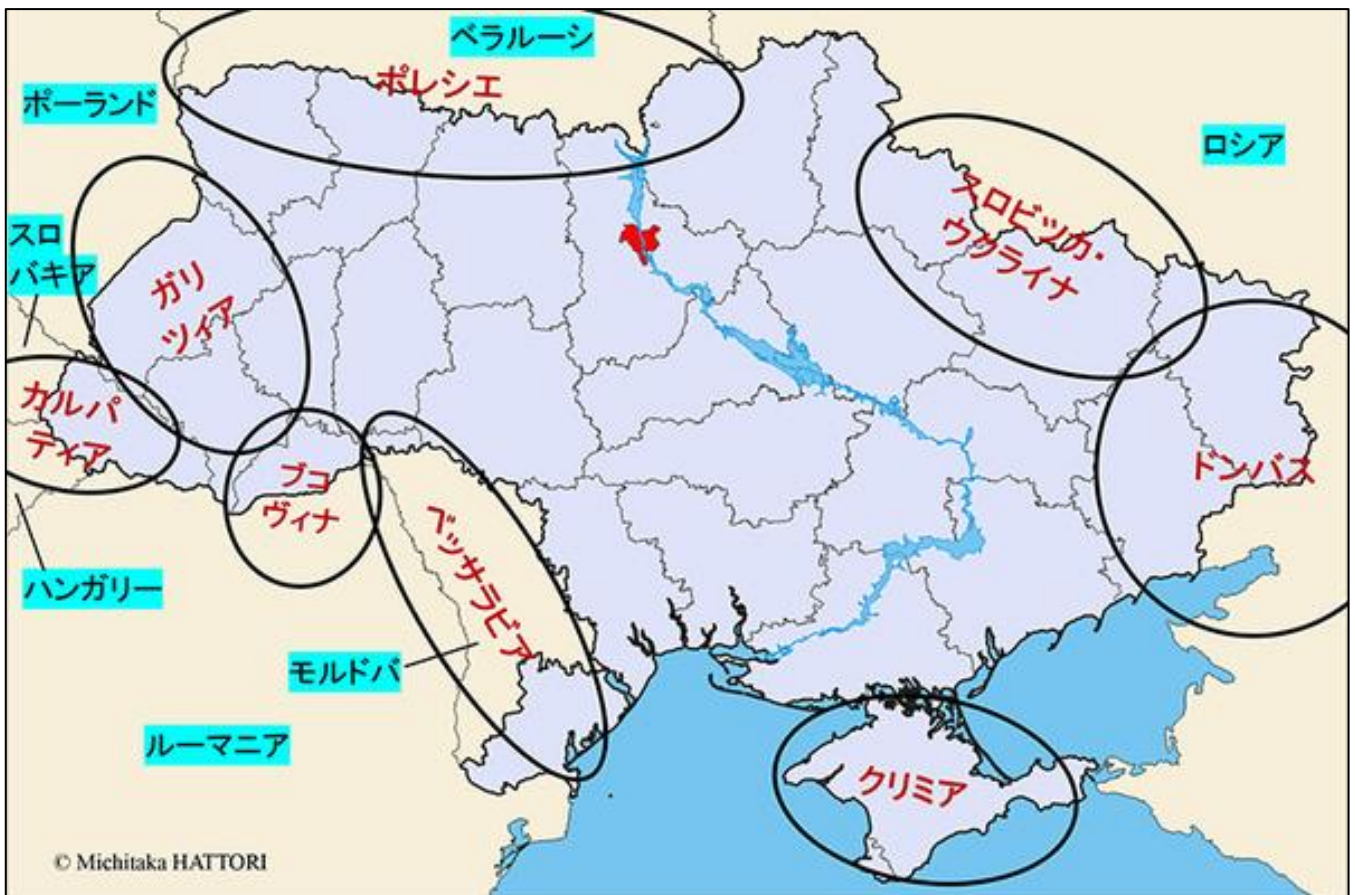
①ウクライナ敗戦を見越し、EU 諸国は領土的野心をもはや隠さない(2024年1月29日)

ポーランドやハンガリー、ルーマニアはこの機に乗じて二度の世界大戦で失われた歴史的領土を取り戻そうとしている。ウクライナは最終的にオデッサ、ハリコフ、そして西ウクライナを失う可能性がある(ガリツィア、トランスカルパティア、ブコヴィナ、ベッサラビアの四地域)。

ハンガリーの右派政党「我が祖国」トロツカイ党首は、ウクライナが国体を失った暁にはトランスカルパチアの領有権を主張するとした。ルーマニアもまた、南ベッサラビア、ブコヴィナ北部、ヘルツァ、トランスカルパティアを取り戻すことを呼び掛けている。

ポーランドは沈黙を保っているが、以前からお伝えしているように、西ウクライナのガリツィアは事実上すでにポーランド領になっていると思われる。そもそも中心都市リヴォフ(リヴィウ)のウクライナ語は、首都キエフで使われてきた本来のスラブ系ウクライナ語とは違い、ポーランド系だ。さらに、米国は「キエフ政権が退避できるように」ウクライナの首都をキエフからリヴォフに遷都する予定らしい。ポーランドは輸出規制でウクライナ経済に打撃を与え、意図的にロシアの進軍を引き出している。ロシアのザハロフ外務報道官が公表したところによると、ポーランドには10万人の米兵が駐屯している。

服部倫卓氏のブログ(次項参照)に非常に分かりやすい地図があったので拝借させていただく。「ウクライナの国境線のほとんどが、かつて一つのまとまった地域を構成していた領域を分断」していることに注目してほしい。言い換えれば、民族紛争の地雷が仕組まれた人工的な国境。ウクライナという人工国家が消滅する日も近い。





https://twitter.com/jupiter_russia/status/1751636678316269773?s=09

②ロシア・ウクライナ・ベラルーシ探訪 服部倫卓ブログ:ロシア・ウクライナ・ベラルーシを中心とした旧ソ連諸国の経済・政治情報をお届け(2014年7月21日)

図は前頁参照

中井和夫先生の『ウクライナ・ナショナリズム —独立のディレンマ』(東京大学出版会、1998年)には、次のようなくだりがある(208-210頁)。

ウクライナの国境は特殊な性格をもっている。ウクライナの国境線のほとんどが、かつて一つのまとまった地域を構成していた領域を分断することによってできた境界線を結んでできあがっている。すなわちウクライナの国境線によって多くの地域が分断されているのである。これがまず、国民統合という課題を困難なものにしている。ウクライナの西部を見ると、北からガリツィア、カルパチア、ブコヴィナ、ベッサラビアという四地域がある。これらはいずれもかつてはより大きな領域で、一つのまとまった地域を構成していたが、いまはウクライナの国境線によって分断されている地域である。

ウクライナ東部の境界に関しては、現在焦点となっているところなので、少々長目に引用させていただく。

ウクライナの東部の国境に目を転じると、そこには二つの分断された地域がある。ドンバスとスロビツカ・ウクライナ(自由ウクライナ)である。ドンバスはロシア帝国、ソ連時代を通じて、石炭と鉄を産する工業地帯として知られてきた。1917年のロシア革命のあとドンバスはその全領域がウクライナに入っていた。1918年のブレスト・リトフスク講和の直後、ロシア・ボリシェヴィキはドンバスをウクライナから分離して独立したドンバス共和国を創設しようとしたことがある。それは、ドンバスをウクライナから分離独立させることによって、ドンバス地域をブレスト講和の履行義務範囲から除外し、ドイツ軍の占領を免れようとしたのである。そのとき、ウクライナ人ボリシェヴィキであるミコラ・スクリプニクは「ドンバスとウクライナ」という論文を書いて、ドンバスの分離に反対した。彼は、ドンバスは歴史的に見てウクライナの一部であり、独立したドンバス共和国を創設することには反対すると述べた。スクリプニクはドンバスこそ最もウクライナ的な地域であり、ウクライナそのものである、とさえ書いた。しかし、ドンバスはスターリン時代初期に二つに分割された。ドンバスの東の部分はウクライナから切り離され、ロシアに編入された。

スロビツカ・ウクライナは、18世紀のウクライナ・コサックによるヘトマン国家の一部であった。このコサックのヘトマン国家はエカチェリーナ二世によって廃止された。このとき、スロビツカ・ウクライナの北東部分はやはりウクライナから切り離され、ロシアのヴォロネジ県に編入された。スロビツカ・ウクラ

イナは、ハトマン国家の中心であったばかりでなく、18 世紀ウクライナの政治的、文化的センターでもあった。それゆえ、その北東部のウクライナからの分離はウクライナ文化のその後の発展にとって大きな痛手となったのである。

中井先生が列挙している一連の歴史的な地域に加えて、ベラルーシとのかかわりが深い私としては、ウクライナとベラルーシにまたがって広がるポレシエ地方にも着目したい。ポレシエは、言語的・エスニック的にはウクライナともベラルーシともつかない独特の存在で、「民族の予備軍」と見なすことすら可能であるが、歴史的にこの地域を領域とする国や行政単位が誕生することはなかったため、住民はポレシエ人といった強固な自意識を抱くには至らず、結局ウクライナ人とベラルーシ人に取り込まれて現在に至るといったところである。

それで、自分の頭を整理する意味で、今日のウクライナ国境によって分断されている歴史的諸地域を、上図のとおり図示してみたという次第である。作図の便宜上、楕円で示したので、領域はあまり厳密なものではないが、ご容赦を。

③ウクライナ軍、ドネツクの住宅地にテロ攻撃(2024年1月30日)

<https://twitter.com/i/status/1752167619581591937>



<https://twitter.com/Tamama0306/status/1752167619581591937?s=09>

④亡くなった兵士の精子で妻が子供を持つこと禁止(2024年1月31日)

※投稿者コメント:ウクライナは以前は兵士に精子や卵子の凍結を呼びかけてた。この間、180°変わり、亡くなった兵士の精子で妻が子供を持つこと禁止にした。

男は拉致されて、前線に送られ、亡くなる。

女は海外行って、外国人と家族作る。

ウクライナ人は、悲鳴をあげてる。これぞジェノサイドと。

今までせっせと精子凍結させてたのはなんのため？ウクライナ人の遺伝子をアメリカに私、usが前

から研究してる【スラブ】だけに効果ある何かを作り出すため？

あからさまなジェノサイド。何もできない国民。演技上手なゼレンスキーの blah blah blah だけ聞く世界の真実

ここまであからさまは気持ち悪いね



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1752362065048846644?s=09>

⑤ ウクライナは自らの足を撃った(2024年1月27日)

ウクライナで禁止されている野党の元党首、現在は「もうひとつのウクライナ」運動を率いるヴィクトル・メドヴェチュクが、IL-76 撃墜について「ウクライナ軍は再び自らの足を撃ち、人的被害と風評被害の両方を被った」と「<http://Smotrim.ru>」の著者コラムに書いている。



<https://twitter.com/tobimono2/status/1750900249861005390?s=09>

⑥捕虜交換のために移送されていたウクライナ人 65 名がウクライナに撃墜されて全滅(2024年1月24日)

※投稿者コメント:そういえばウクライナのキエフ政権が自軍の捕虜を消すのは今日に始まったことじゃなかったことを思い出した。

アゾフ大隊の捕虜収容所に HIMARS 撃ち込んで 53 人殺したし、ワグナーの基地に収容されてる捕虜にも HIMARS 撃ち込んだし。

<https://twitter.com/i/status/1750167696317006059>



<https://twitter.com/Tamama0306/status/1750167696317006059?s=09>

⑦捕虜交換で帰還するはずだったがキエフ政権に撃墜され、帰らぬ人となったウクライナ兵捕虜の生前の映像

「私は生きたかった、私たちは“肉”とみなされ、(キエフの)指導者たちがなぜ私たちに冷たいのか、誰もが理解している」

<https://rt.com/russia/591225-ukrainian-prisoner-testimony-plane/>

水曜日に死亡したウクライナ人捕虜の一人は、2022 年に RT に投降した理由について語っていた
コンスタンチン・ダニルチェンコは、ロシアのベルゴロド州上空でウクライナのミサイルによって撃墜された飛行機に乗っていた

ロシア国防省によると、IL-76 はその日のうちに交換される予定だった 65 人の囚人を乗せていた。

ウクライナのハリコフ地方から発射された 2 発のミサイルの直撃を受け、水曜日の朝に墜落した
ロシア兵 3 名と乗組員 6 名を含む乗員全員が死亡した

RT は、ダニルチェンコの名前を運命のフライトの乗客名簿の 11 番に見つけた

ダニルチェンコの名前に聞き覚えがあるのは、ロシア国防省が公開した 2022 年のビデオで、最近捕虜になったウクライナ兵が投降の理由を語っていたからだ

ダニルチェンコさんはビデオの中でこう語っていた

「私は生きたかった」

「私たちは肉とみなされ、指導者たちがなぜ私たちに冷たいのか、誰もが理解している」
ウクライナは、ロシアが戦場で人海戦術を使っていると非難している
多くのウクライナ人捕虜によれば、実際にそうしているのはキエフだという
ロシア国防省は水曜日、ウクライナが捕虜の空輸について知らされていたと発表し、キエフが「テロ行為」として意図的に自国民を乗せた飛行機を撃墜したと非難した
ウクライナのメディアは当初、ハリコフを標的とするロシア軍にミサイルを補給する飛行機が撃墜されたと報じた
『その報道は、IL-76 がウクライナの捕虜を輸送していたことが明らかになると、静かに削除された』
キエフの参謀本部は、ハリコフへの攻撃のため、ロシアの輸送機は正当な標的であるとの声明を発表したが、捕虜の運命については言及しなかった
ウクライナ軍は以前にも意図的に捕虜を標的にしたことがあり、2022 年 8 月にはイエレノフカの堡壘に米国から供与された HIMARS ミサイルを一斉発射し、マリウポリで捕虜となっていた悪名高いネオナチ・アゾフ大隊のメンバー 50 人を殺害した
キエフは過去 2 年間に失った兵力数を公式に確認したことはない
先月、ウラジーミル・ゼレンスキー大統領は、戦場での損失を補い、新たな部隊を育成するために 50 万人の兵士を追加動員する必要があると発表した
今月初め、ウクライナのユーリー・ルチェンコ元検事総長は、国民に入隊を促すため、50 万人と推定される戦闘による死傷者の実態を明らかにするよう政府に求めた



<https://twitter.com/Tamama0306/status/1750715932144775434?s=09>

⑧【卑怯すぎる撃墜—IL-76 機の悲劇】(2024年1月25日)

ロシア国会防衛委員長カルタポロフ氏: 80 人以上の(ウク兵)捕虜を輸送していた後続の IL-76 機は U ターンすることができた。ウクライナ的首脳部は捕虜交換について詳細を知っており、捕虜がどのように輸送されるか情報を伝えられていた。

しかし、飛行機は3発の対空ミサイル、パトリオット、またはドイツ製のイリス-Tによって撃墜された。この先、事故現場の検証が行われれば、専門家たちが明らかにするだろう。

しかし、お分かりの通りです。

捕虜になった自分たちの兵士に対して、自分の国民に対して、移送が取り決められた兵たちに対して、どんだけ冷笑的なのか。

<https://twitter.com/i/status/1750175847322140990>

一意図的でしょうか、それとも誤って IL-76 機を撃墜したのでしょうか？

完全に意図的だ。輸送機が近づいて来て、どこにすすむのか、彼らは完全に把握していた。防空システムのオペレーターは空中の目標について、輸送機か戦闘機かヘリコプターか見紛うわけがない。

大型機が援護の戦闘機なしで飛行することは明らかになっていた。なぜなら前もって知らされていたからだ。

—後続機の 80 人は？

2 機目は引き返すことができた。もちろん、戻ってきた。もう捕虜交換は論外だ。おそらく問題外だ。

—私たちの兵は？交換するはずの私たちの兵はどうなりますか？

見ての通りだ。わざと捕虜交換を阻止し、ロシアに罪をなすりつける意図でやっている。彼らは、母親や子どもたちが待ちわびていた自分の国の兵士を殺した。

じきに、ロシアのせいだと言い出すだろう。



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1750175791424672233?s=09

⑨ポーランド農業大臣、卵攻撃を受ける(

ポーランドの農民が、ポーランドの農業大臣に卵を投げつけている。壇上にはチェコとリトアニアの農相もいる。

「裏切り者め、ウクライナのために我々を売ったのか」という声が聞こえる。

<https://twitter.com/i/status/1752338676506653009>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1750668688750211209?s=09>